

初戴冠にジーン

3人のプレーオフ制す

《第54回九州シニア選手権》

通算3オーバー 147

野上 英司（ミッションバレー、66歳）



【3人のプレーオフを制して初優勝の野上㊦、㊥は福留、中央は井手尾（背中）】

年甲斐もなく鼻の奥がツーンとなった。下り8mの難しいスライスライン。決めれば初優勝。その前に福留は下からのバーディーパットを外していた。3人のプレーオフのもう1人・井手尾は4オン。野上はジャストラインでカップに沈めた。「半泣き状態。ズーンときたね。こういう感動があるのかな、と。プロが優勝した時に万歳するのが分かるね。それにしても、あのパットはよう入った」と66歳のおじさんは感慨にふけた。

プレーオフは1番ロング(562ヤード)から始まった。野上はユーティリティーでの第1打を右ラフ。2人はフェアウエーのセンター。野上のセカンドは前方の木が邪魔になり左サイドに。2オンを狙った福留の第2打はわずかにグリーンをオーバーする。この時点では福留が圧倒的に優位に立っていた。野上はピンまで157ヤードの第3打を8mにオン。逆に福留はアプローチが強く入ってしまい、野上以上のバーディーパットを残した。「福留さんの優しさだね。今回つくづく思ったよ、ゴルフは何が起こるか分からん、とね」。プレーオフは「5、6回やって1回しか勝っていない」と苦手な方だが、今回は勝利の女神をつかんで離さなかった。

何が起こるか分からないのはプレーオフだけではない。初日の1番ホールで野上は5Wでのティーショットを2連続OBして「9」。いきなり大きなハンディを背負うことになったが、それからプレーオフを含めると、36ホールを2アンダーで回った計算になる。最悪のスタートホールを最後にリベンジした格好だ。「めげんのよねえ。予選落ちも頭をよぎったが、そこを見たら日本シニアにも行けんごとなる」と気持ちを切らさなかったのが初優勝を呼び込んだ。



九州共立大1年までは野球に打ち込み、ゴルフは20歳から始めた。23歳から競技に参加。現在は出身地でもある福岡県直方市でゴルフ練習場の代表を務める。九州のゴルフ界では「野上3兄弟」として有名な存在だ。九州ゴルフ連盟主催競技の常連で「参加料をかなり払ってきた」とおどけたが、勝利には不思議と縁がなかった。「2番手と思っていた」という男がようやく日の目を見た。

今回の勝利は意欲を倍加させる。「もう少し勝っちゃろうという意識を持ってね。ここまでゴルフがやれて幸せ。日本シニアもできるだけ頑張るよ」と孫3人のおじさんはネジを巻きなおす。

《有明CC》

